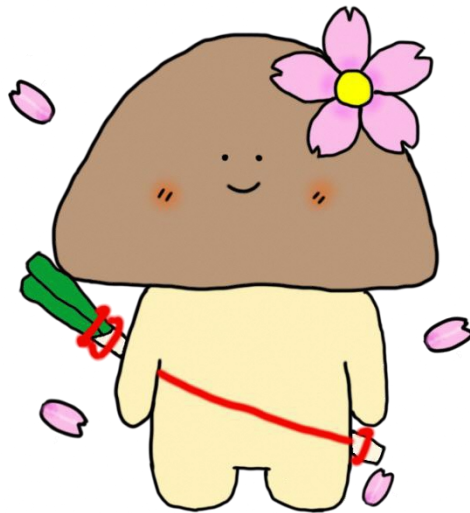


令和 6 年度

「大学生と集落の協働による地域活性化事業」

業務実施報告書



福島県田村郡三春町貝山地区

東北大学福興 youth

目次

1	はじめに	1
2	三春町貝山地区の概要	1
3	事業の背景・目的	2
3.1	三春町の農業従事者の減少	2
3.2	福島県産品への関心の低下	2
4	今年度の事業内容	4
4.1	貝山地区での交流会	4
4.2	しいたけ観察アプリの開発	5
4.3	阿武隈山系の放射線量測定	9
4.4	HP・SNSでの広報	10
5	今後の展望	11
	参考文献.....	12
	謝辞	13

1 はじめに

弊団体「東北大学福興 youth」は、2013 年から福島県浜通りを中心にさまざまなボランティア活動を行ってきた団体である。本事業には昨年度（令和 5 年度）から取り組んでおり、昨年度は農業を中心として福島県や三春町の実態を調査するため、三春町役場や有限会社 M&A ふぁーむ・わたなべ（以下：ふぁーむ・わたなべ）、JA 福島さくらのピーマン選果場などを訪問してお話を伺った。

この報告書では、我々が事業を実施させていただいた三春町貝山地区の概要、事業の背景・目的、今年度の事業内容および今後の展望についてまとめている。

2 三春町貝山地区の概要

福島県田村郡三春町は、中通り地域のほぼ中央部に位置する、人口約 1 万 6000 人の町である。主要な特産品としては三春駒、三春張子人形、ピーマン、ブルーベリーなどが挙げられ、樹齢約 1000 年を超える天然記念物の三春滝桜には毎年春になると多くの観光客が訪れている。東日本大震災の際には、浜通り地域から多くの避難者を受け入れ、町独自の判断で安定ヨウ素剤を住民に配布し、服用を促した唯一の自治体である。

また、東北大学理学部と共同で、原発事故に対する草の根レベルでの取り組みを展開し、収集した情報や分析結果を広く共有することを目的とする「三春“実生”プロジェクト」が 2011 年から進められている [1]。

貝山地区はこの三春町の南西部に位置し、令和 2 年国勢調査によると、貝山字宮ノ前の人口は 563 人、農業従事者は 11 人となっている [2]。



図 1 三春町の位置 [3]

3 事業の背景・目的

3.1 三春町の農業従事者の減少

三春町では農業従事者の減少が課題となっている。

2024 年版三春町町勢要覧によると、図 2 に示すように農家総数は 5 年ごとに約 1 割減少しており、近年はその減少の流れが加速している [4]。このような農業従事者の減少は、地域の農業生産能力や食料供給、ひいては地域経済の維持や農業技術の継承などに影響を及ぼすと考えられる。この減少の要因は、若者の農業離れや農業の魅力の理解不足、労働環境の厳しさなどであると考えられる。そのため、農業の現状や魅力を伝えて、世間の農業への関心を高めていくことが必要である。

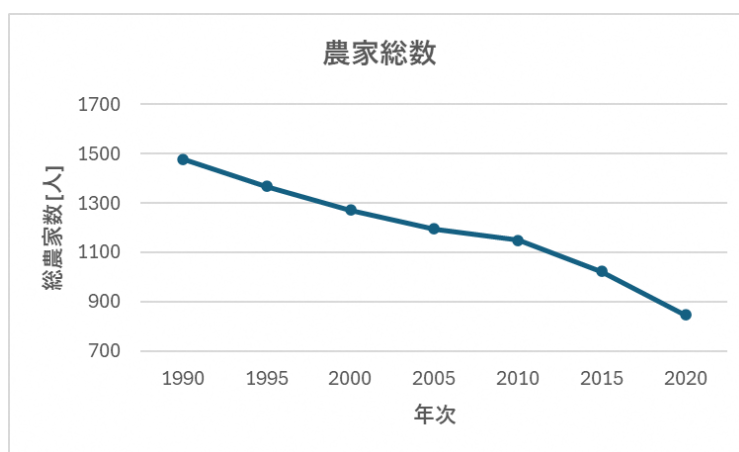


図 2 三春町内の農家総数の推移
(2024 年版三春町町勢要覧より作成)

3.2 福島県産品への関心の低下

さらに、福島県産品に対する関心の低下も重要な課題となっている。

消費者庁が 2024 年に実施した「風評に関する消費者意識の実態調査(第 17 回)」によると、図 3 に示すように、放射性物質を理由に福島県等の食品の購入をためらう人の割合は 4.9%と過去最小であるものの、食品中の放射性物質の検査が行われていることを知らないと回答した人の割合は 61.5%と高い水準にある [5]。また、三菱総合研究所が 2022 年に実施した「震災・復興についての東京都民と福島県民の意識の比較」第 5 回調査によると、震災に対する意識、関心が薄れていると思うと回答した東京都民の割合は 52.4%と、半数を超えている [6]。

以上のことから、震災から14年近くが経過しようとしている中で、福島県産品の現状についての世間の関心が低下していることが読み取れる。福島の実状に関する情報を発信し、正しい理解を促進していくことは、福島の復興を推進する上で不可欠である。

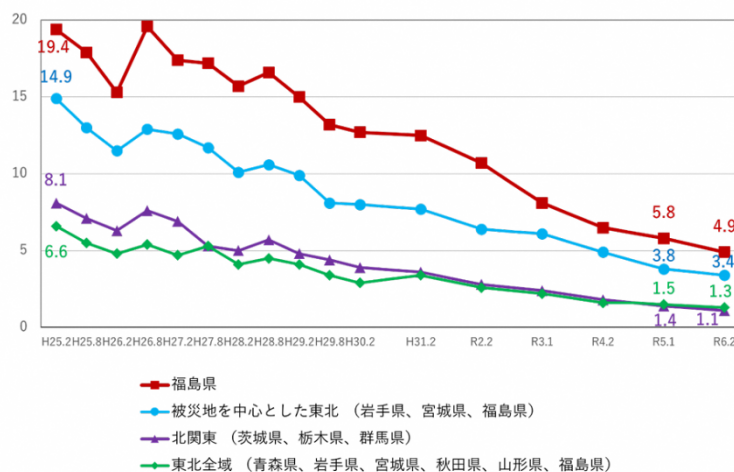


図3 放射性物質を理由に購入をためらう食品の産地 [5]

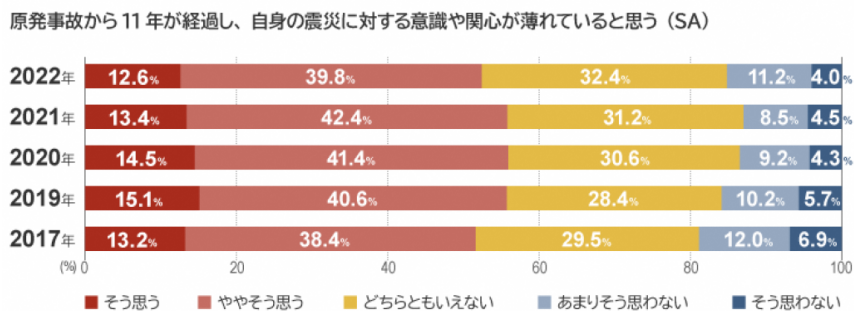


図4 震災に関する東京都民の意識、関心 [6]

こうした現状を踏まえ、弊団体は「福島県の農業や三春町に関心を持ってもらう」ことを目的として事業に取り組んできた。

4 今年度の事業内容

4.1 貝山地区での交流会

昨年7月15日には三春町を訪問し、貝山地区において定期的に行われている「貝山いきいきサロン」に参加した。この訪問では、三春町貝山地区にお住まいの地域住民の方々との交流を図ることを目的とし、当日には弊団体から6名、貝山地区からは30名程の方が参加された。軽い運動やアイスブレイクの後、住民の方々とお話しする機会をいただいた。メンバー各々が直接町民の方々からお話を伺うことができ、貝山地区の郷土料理や、以前開催されていた行事などについて様々なお話を伺い、特に今回初めて三春町を訪問したメンバーにとっても自分たちが関わっている三春町という地区について、深い学びを得る機会となった。



図5 7月の貝山いきいきサロンの様子

また、昨年の11月には三春町にあるふぁーむ・わたなべのビニールハウスにて、ふぁーむ・わたなべの方々と貝山地区の住民との交流会を開催した。この交流会では、三春町の郷土料理である油揚げうろく焼きやふぁーむ・わたなべで育てられたしいたけ、ネギを使った豚汁などを食べながら、住民の方々のお話を聞き、交流を深めるとともにメンバー一同が三春町の魅力を再確認することができた。交流会の後には、ふぁーむ・わたなべのビニールハウスを見学させていただき、特に初めてふぁーむ・わたなべを訪問するメンバーにとっては、アプリで見ていたしいたけを実際に間近で見ることでそれまで以上にしいたけに愛着が湧き、しいたけ栽培の大変さ・やりがいなどを実際に感じられる機会となった。



図6 11月の交流会の様子

4.2 しいたけ観察アプリの開発

今年度は、昨年度から構想していたしいたけ観察アプリ「My しいたけ観察日記」の開発を大きく進めることができた1年となった。アプリの概要について説明する。

はじめに、ユーザーは「マイページ」から、プロフィールに設定するキャラクターおよび観察するしいたけ菌床(My しいたけ)を選択し、My しいたけの名前を設定する。ここで選択するキャラクターは本プロジェクトで作成したオリジナルキャラクターであり、図7に示すように、それぞれが三春町の特産品をモチーフとしている。(メインキャラクターの「たけはる」は「しいたけ」と「みはる」から名付けた)

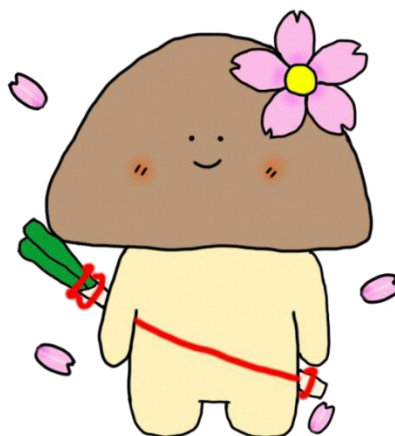


図7 (左)「My しいたけ観察日記」に登場するキャラクターたち
(右) メインキャラクターの「たけはる」

続いて、「写真をとる」→「日記を書く」→「日記を読む」と順に進めていくと、図8のように My しいたけの育つ様子を観察日記として記録することができる。その際、菌床が置かれているハウス内の室温、湿度、気圧が自動入力されるため、ハウス内の条件からしいたけの生育について考察することができるようになっている。



図8 アプリ内で撮影したしいたけの写真

このようにして書いた観察日記は「日記を製本する」から図9のように PDF ファイルとしてダウンロードできるため、それを印刷すれば日記帳のようにまとめることができる。

Myしいたけ観察日記

観察 1 日目		
日にち 12/13/2024	時間 7:08:07 PM	気温 17.35 °C



観察 また大きいのが生えてきている

今日のできごと 動画を作ってブログを書いたぞ🔥

図 9 観察日記のページデザインの例

以上が、しいたけ観察アプリ「My しいたけ観察日記」の概要である。弊団体は、このアプリを貝山地区とその外の人とを繋ぐツール、および教育コンテンツとして使用することを視野に入れ、各所での説明会を実施した。

昨年 11 月には三春町役場を訪問し、役場職員の方々（地域政策課、産業課、企画政策課含む 6 名の皆様）に向けて、それまでの約 1 年半にわたる活動についての報告会を行った。この報告会を通して、アプリの概要について知っていただくとともに、三春町地区の学校現場でアプリのアンケート募集を行えないか提案をすることができた。また、来年度以降の活動内容の例も提案し、それについて役場職員の方々と議論することができた。



図 10 11 月の三春町役場でのプレゼンの様子

昨年 12 月には、福島県立安積高等学校を訪問し、生徒を対象としたアプリの説明会のほか、アプリの試験利用を実施した。千葉惇教諭の協力のもと、1～2 年生を対象に生徒を募集し、2 週間にわたりアプリを利用してもらい、意見をいただいた。学生や教諭の意見を広く募ることにより、アプリの使用感や改善点を把握することができ、今後のアプリのブラッシュアップに資する知見を得ることができた。



図 11 12 月の安積高校での説明会の様子

さらに、今年 1 月には三春町内にある福島県立田村高等学校を訪問し、安積高校と同様の説明会を開催させていただいた。この説明会は前述の三春町役場でのプレゼンにご出席いただいた田村高校の講師の方のご協力によって実現したものであり、当日は同校の食農ゼミのメンバーを中心とする 30 名以上の生徒に参加してもらった。また、こちらも 2 週間の試験利用の後にアンケートに回答してもらい、アプリの今後の方針を考える上で有益な多くのアイデアを得ることができた。



図 12 1 月の田村高校での説明会の様子

安積高校と田村高校の生徒たちによる試験利用を終え、アプリのデザインについては、一覧の見やすさ、操作の簡便さ、イラストの導入の点から高評価を受けた。一方でマイページの位置が分かりにくい、使い方紹介動画の再生中に操作ができない、撮影と日記作成が一つのステップでできない等の問題点も指摘された。継続利用のしやすさを調査したところ、日記作成や経過観察が楽しめた人がいた一方で、しいたけに興味を持てず観察の習慣化が困難である等の意見があった。これには、しいたけの成長が分かりにくく、アプリの目的が不明瞭なために達成感が得られにくいというアプリの根本的な課題がある。アプリを通じた福島復興や農業の現状理解の促進については、福島県の農作物が安全であることや復興状況を知ることができる点が評価されたものの、農業に興味がない人にはアプリだけでは十分な理解に至らないとの課題があった。アプリを通じてふぁーむ・わたなべへの関心を向上させるという点については、アプリを通じて実際にしいたけの成長を観察したいという声が上がっており、成功したといえるだろう。

今後の改善案として、次の取り組みが考えられる。まず、アプリの利用を習慣化するために、通知機能やログインボーナス機能を実装する。また、観察対象をしいたけ以外にも拡大し、ユーザーの興味を引くことが求められる。さらに、アプリのメインターゲットを福島や農業に関心のある人々に設定し、機能の充実や食育や職業体験のツールとしての利用を促進する。具体的な施策としては、福島や農業に関する豆知識やクイズコーナーを追加し、しいたけの栽培方法を学べるミニゲームを実装することなどを計画している。また、規定の日数観察を行ったユーザーに対して、しいたけなどの景品を提供することで、利用者のモチベーションを向上させることができると考えられる。

4.3 阿武隈山系の放射線量測定

ふぁーむ・わたなべでは福島第一原発事故が起こるまでは阿武隈山系（特に田村市都路地区）の木をしいたけ栽培に用いていたが、原発事故以降は福島県外の木を使用している。

この現状の中で、同社の代表である渡邊氏は「原発事故以前の、阿武隈山系の良質な檜の木を使用したしいたけ栽培を再興させたい」という想いを抱いている。

この渡邊氏の想いに共感し、現在の田村市都路地区の土壌の放射線量を測定することが必要だと考えた我々は、福島県の県中農林事務所 森林林業部 林業課の方々にご協力いただき、昨年9月に同地区の山林にて土壌のサンプリングを実施した。採取したサンプルは東北大学へと持ち帰り、その放射線量を測定した。

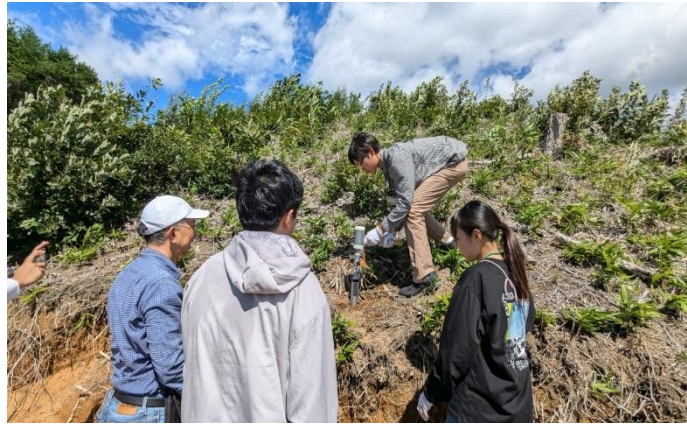


図 13 田村市都路地区での土壌サンプリングの様子

また、サンプリングを行うにあたって、県中農林事務所の職員の方々からお話を伺い、現在林野庁や福島県などが連携して進めている「里山・広葉樹林再生プロジェクト」について理解を深めることができた。さらに、世界と比べて非常に厳しい日本の食品中の放射性物質基準値をクリアしている福島県産品の安全性を発信していくことに職員の方々が難しさを感じていらっしゃることもわかった。

4.4 HP・SNS での広報

活動成果の周知のために、ホームページのほか、SNS（X、Instagram）を用いた広報を実施した。

ホームページでは、活動概要やメンバー紹介のほか、実施した活動内容をブログ形式で掲載し、閲覧者が詳細な情報を得られるよう工夫した。SNS では、活動の様子を写真や動画とともに発信し、視覚的に伝わりやすい広報を心がけた。また、三春町内の飲食店も紹介し、地域の魅力の周知・広報にも積極的に取り組んだ。

TOP	Myしたいけとは？	しいたけの部屋	メンバー紹介	ブログ	お問い合わせ
■ 2025年2月7日 1/17 田村高校の生徒さんたちにアプリを使ってもらいました！ 1月17日に、三春町内にある福島県立田村高校を訪ね、開発中のアプリ「Myしいたけ観察日記」についての説明会を開催しました！ 今回の訪問は、昨年の三春町役場でアプリお披露目会にご出席いただいた田村高校の講師の方のご協力 [...] ■ 2024年12月27日 11/30 ふぁーむ・わたなべ&貝山地区のみなさんと交流会を開きました！ 11月30日にふぁーむ・わたなべさんのビニールハウスにて、ふぁーむ・わたなべのみなさん、貝山地区にお住まいのみなさんと交流会を開催しました！ 交流会では、三春の食材を使って、ご参加いただいたみなさんと一緒に、油揚げのろく焼 [...] ■ 2024年12月13日 11/29 三春町役場で「Myしいたけ観察日記」のプレゼンを行いました 11月29日に三春町役場にて、現在制作中のアプリ「Myしいたけ観察日記」のプレゼンを行いました。今回は榎木と長谷川の2名で訪問し、三春町役場の職員の方（企画政策課、産業課、教育課から計6名）と、ふぁーむ・わたなべの渡 [...]				活動報告 最近の投稿 1/17 田村高校の生徒さんたちにアプリを使ってもらいました！ ■ 2025年2月7日 11/30 ふぁーむ・わたなべ&貝山地区のみなさんと交流会を開きました！ ■ 2024年12月27日 11/29 三春町役場で「Myしいたけ観察日記」のプレゼンを行いました ■ 2024年12月13日 9/16~17 遠藤きのご園視察&阿武隈山地での土壌サンプル採取 ■ 2024年10月2日 7/15~16 貝山地区のいきいきサロン ■ 2024年8月7日	

図 14 ホームページに掲載中のブログ一覧

広報活動を通して、活動の内容や地域の魅力を広く発信することができ、多くの人に
関心を持ってもらう契機となった。

5 今後の展望

今年度の活動は、三春町貝山地区の魅力発信のためのツールとしてのアプリ開発が中心となった。来年度以降は特に、三春町外の人に魅力発信を行う活動に注力していきたいと考えている。弊団体は、地域主体の活動の補助的な活動と、弊団体主体の活動の2つの方向から発信活動を行う。具体的に地域主体の活動としては、ふぁーむ・わたなべを中心とした農業の現場に人を呼び込み、農業見学会を行うことや、三春町を代表とする観光名所である三春滝桜の観光客を対象とした出店の補助が考えられる。特にこうした見学ツアーや農作物販売のお手伝いをする際に、集客のための SNS やアプリの活用、参加者への三春町の魅力発信等をしていきたいと考えている。

また、弊団体主体の活動としては、三春町の定期的な訪問から学ぶ地域の魅力や情報を HP や SNS 等により発信していくことに加えて、アプリの利用者が三春町の農業の現状や福島県の農産品の安全性について知ることができるコンテンツの作成、キャラクターグッズなどの作成を想定している。さらに現在構想段階ではあるが、全国各地から人が集まる東北大学の学祭にて、ふぁーむ・わたなべのしいたけ、ねぎを用いた料理を販売することによる地域発信についても検討中である。その際、販売する商品に付加価値としてアプリの QR コードをつけることによって、購入者が食の美味しさだけでなく、生産現場の実情を知ることにもできるといった商品作成を考えており、こうした「農作物商品の販売を通じた生産現場の情報発信」という新しいプラットフォームの作成について現在検討中である。このようなアプリや HP といった情報発信コンテンツがあるからこそできる地域の魅力発信活動を中心に、さらなる活動展開の可能性についてメンバーと貝山地区の住民の方々とで協議していく。

参考文献

- [1] 三春町公式ホームページ：実生プロジェクト
(<https://www.town.miharu.fukushima.jp/soshiki/27/misho-project.html>)
- [2] e-Stat：令和 2 年国勢調査 07：福島県
(https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001136464&cycle=0&tclass1=000001136472&tclass2=000001159880&stat_infid=000032210314&cycle_facet=tclass1%3Atclass2&tclass3val=0)
- [3] Map-It：福島県田村郡三春町の地図
(https://map-it.azurewebsites.net/Map/%E7%A6%8F%E5%B3%B6%E7%9C%8C__%E7%94%B0%E6%9D%91%E9%83%A1_%E4%B8%89%E6%98%A5%E7%94%BA/highlight)
- [4] 三春町：2024 年度版 三春町町勢要覧 資料編
(<https://www.town.miharu.fukushima.jp/soshiki/2/uploads/%E2%98%86%E7%94%BA%E5%8B%A2%E8%A6%81%E8%A6%A72024.pdf>)
- [5] 消費者庁：風評に関する消費者意識の実態調査（第 17 回）について
(https://www.caa.go.jp/notice/assets/consumer_safety_cms103_240307_01.pdf)
- [6] 三菱総合研究所：震災・復興についての東京都民と福島県民の意識の比較 第 5 回調査結果の報告
(https://www.mri.co.jp/knowledge/column/dia6ou000004w1g0-att/mtr_fukushima_202212.pdf)

謝辞

本事業に取り組み始めて2年目となる今年度は、貝山地区の住民の皆様との交流を通して、改めて三春町の人の温かさや食の豊かさを感じることができ、これらを町の外の人たちにも知ってもらうためのツールとしてしいたけ観察アプリを開発することもできました。昨年度から本事業に多大なるご協力をいただいている、ふぁーむ・わたなべ代表 渡邊俊史氏をはじめとする三春町貝山地区の皆様、三春町役場の皆様、および国立研究開発法人 情報通信研究機構の皆様に深く感謝申し上げます。

また、今年度から新たに、「純福島県産しいたけの再興」という長期的な目標に向けての取り組みを始めることができました。ご協力いただいた福島県県中農林事務所 林業部 林業課の皆様に御礼申し上げます。

さらに、今年度は本事業を福島県内の高校生に向けて直接発信することもできました。本事業に関心を持っていただき、「My しいたけ観察日記」の試験利用にご協力いただいた、福島県立安積高等学校ならびに田村高等学校の教師の皆様、生徒の皆様に深く感謝申し上げます。

以上、東北大学福興 youth の、「大学生と集落の協働による地域活性化事業」2年目（実証活動）の業務実施報告とさせていただきます。

令和7年2月28日

東北大学福興 youth